

畦っこ瓦版 NO99

畦っこ元気くらぶ
平成26年7月26日
編集 高野重春

連絡先
Takano48@mue.biglobe.ne.jp

人と自然が共存できる里山回復を目指した活動

異変続き

7月初旬、猛烈な台風8号が来襲して各地で大きな被害が発生しました。台風の通過後、日本全土は広い範囲で厳しい暑さが続き、関東地方は22日に梅雨が明けました。梅雨が明けた翌日は二十四節気の「大暑」、一年のうちで最も暑い時期、その暦に同調するかのように日本全土は暑い空気で覆われ、記録的な暑さが続いています。

活動拠点では、夏を象徴するヤマユリが大きな白い花を開花させ、独特の強い香りを放ち、その存在感と威厳を保っています。古い株ほど多くの花を付けますが、最近ではイノシシの被害が拡大して大きな株は年々少なくなっています。

いま、田んぼ周辺ではヤブカンゾウ、ミソハギ、チダケサシ、オカトラノオ、オオバギボウシなど夏の花が真っ盛り、その茂みに入ると、むっとする「草いきれ」で体中から汗が噴き出てきます。

毎年、樹液を出すコナラに沢山の昆虫が集り、翅を動かし威嚇しながら場所取りするオオムラサキ、そのほか、クワガタやカブトムシ、スズメバチなど、多くの昆虫が見られるが、今年は様子が違います。

樹液に集まる昆虫の数が妙に少なく、オオムラサキやクワガタはまだ現れません。いったいどうしてしまったのでしょうか。

そういえば、年が明けた2月の終わり、数か所のエノキの根元で越冬するオオムラサキやゴマダラチョウ、アカボシゴマダラの幼虫が不思議と少ないと直感した出来事が目の前で起こっています。

これからが夏の本番、森のレストランが満員御礼になる時期が待ち遠しい。



ハナイカダの果実

ヤブカンゾウ



ヤマユリ

稲の生長と水田雑草

6月の豪雨、7月の猛烈な台風の来襲で心配していた夏場の水不足は解消しました。

5月に植え付けた3~5本の苗は自然からありとあらゆる恩恵を受け、苗は根元から分かれ増えていきます。これを分けつと呼びます。

2ヶ月で株は5倍程度に増え、生長の段階で稲同士が光の競合を起こし、光が当たらない茎は黄色く枯れています。

稲の生長とともに、厄介な雑草も旺盛に育ち、雑草に負けないよう人力除草を行い、秋の収穫まで米作りには人手が掛かります。水田にはコナギ、オモダカ、キクモ、ミズニラなどが繁茂しています。



5月の田植え直後



7月24日の稲の様子



水田雑草 コナギやオモダカ